

漢方と現代病 4

漢方の肺臓と肺臓の病気



中国漢方医師
医学博士
こう 殿昌 先生

1963年中国山東省生まれ。85年中国維坊医学院臨床医療学部卒業。94年東北大学医学部留学。99年同大大学院にて医学博士号を取得。専門：難病、がんの漢方治療。現在、国際伝統現代結合腫瘍学会(SIO)会員、日本統合医療学会(JIM)会員、日本東洋医学会会員、日本小児東洋医学会会員。

懷仁堂漢方薬局 福島店
<http://www.kajindou.com/>

- 住 所 福島市万世町2-8 P/有り
- 電 話 日 024-526-2581
- 相 談 日 【要予約】
毎週月曜日、水曜日
AM10:00~PM6:00
- 営業時間 日曜日、祝日
- 定 休 日 日曜日、祝日
- 仙 台 店 ☎022-718-5858
- 山 形 店 移転準備中

懷仁堂漢方薬局の侯殿昌です。昨年に続いて3回にわたり漢方についてお話させていただきます。今回は肺臓です。五臓の一つである肺臓は、一番環境の影響を受ける臓器です。子どもから高齢者まで咳痰、肺炎と様々な難病が増えています。漢方医学の肺臓の考え方と肺の病気の治療法を紹介いたします。

漢方の肺の範囲

肺臓は胸の中で心と同居し、最も高所に位置して五臓と六腑を覆っているので「華蓋(飾りのついた傘)」と呼ばれ、吐故納新(酸素ガス交換などの新陳代謝)の機能に適応しています。漢方の肺は肺本体のほかに鼻、喉、気管、皮毛、大腸を含めて機能していると考えます。

漢方の肺の機能と病気

漢方医学では、肺臓は「相補の官」と呼ばれ、君主の心を補佐する宰相の役割を果たして気血を調達し、五臓をよく協調させています。漢方の肺臓は呼吸機能だけでは

なく、鼻の病気(花粉症・蓄膿症など)、気管支の病気(気管支喘息・咳・痰など)等、全身の「防衛力」の源で、弱くなると口や鼻から「邪気」のばい菌やウイルスが侵入して風邪や肺炎になると考えます。もちろん、肺気腫、肺線維化症、間質性肺炎、肺がんなども肺の病気です。

最近、マイコプラズマ肺炎のように耐性菌、耐性ウイルスが増え、様々な肺の難病も増えています。やはり肺臓を強めて予防することは大事だと思います。

多くの肺の難病に効果

喘息をはじめ、漢方の肺の病気の治療法は「宣肺解表」の肺臓を強めると同時に「清熱化痰、止咳平喘」の「対症治療」も行います。

漢の時代から、肺臓の病気を治す伝統的な漢方薬がたくさんあり、例えば皆さんご存じの春の花粉症に効く「小青竜湯」をはじめ「清肺湯」「補肺湯」「清肺解毒湯」など、喘息の咳痰だけではなく間質性肺炎、肺線維化症にも優れた効果が証明されました。中国では肺の難病に広く漢方治療を応用し、

優れた効果を得ています。2004年中国科学技術文献社によると、562例の間質性・線維性肺疾患の漢方治療結果は完治335例(59.6%)、有効183例(32.6%)、無効44例(7.9%)でした。また、当薬局も肺の難病の漢方応用で効果を上げています。例えば60代の息切れ、息苦しい、呼吸困難、歩行困難、話し困難の間質性肺炎の男性は2か月間、肺を強める漢方薬を服用し、息切れ、息苦しさが軽くなり、呼吸は楽になるなどの効果を得ています。

高齢者や子どもに優しい

高齢者の場合、喘息や慢性気管支炎以外に心臓、腎臓の狭心症、動悸、不整脈、糖尿病、痛風など複数の病気を抱えている方が多いので、西洋医学では必ず症状に合わせて、数種類から十数種類の薬を処方します。漢方医学の場合は、体全体を考え、一つの処方に対応できます。さらに、漢方薬は自然な植物で高齢者や子どもに優しく安心です。

冬は、肺臓が一番弱く風邪やインフルエンザが流行する季節なので、予防注射だけではなく、早めに漢方薬で肺臓を強めれば慢性喘息、咳、痰だけでなく、これからの風邪やインフルエンザ予防、特に高齢者の肺炎にも理想的効果があります。